

関係各位

福岡県米・麦・大豆づくり推進協議会
(事務局：J A 福岡中央会 担い手・営農サポートセンター)
(公 印 省 略)

営農情報 3

大豆の収量向上は「適期播種」から！

大豆の収量向上には、まず「適期播種」が重要です。

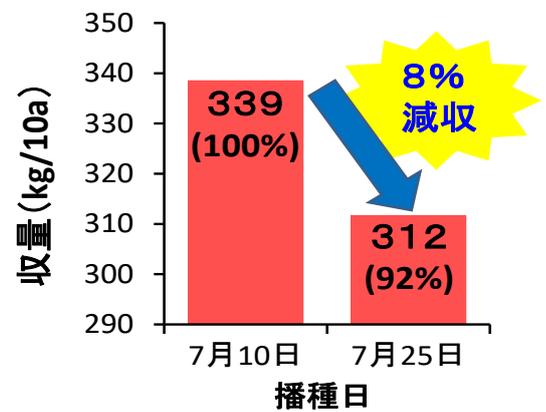
適期である 7 月 20 日までに播種が完了するよう、計画的に作業を進めましょう。(平年の梅雨明けは 7 月 19 日頃なので、梅雨明け前から天気予報を確認しながら、計画的に排水対策、耕起、播種を行うことが大切です。)

降雨により播種が遅れた年でも、適期播種できた生産者は、10a あたり 200kg/10a 以上 (地域 JA 平均比 123%) の収量を確保した事例もあります。

表 適期播種の達成割合と収量の関係
(久留米普及指導センター調べ)

	7 月 20 日までに播種できた面積割合	単収 (kg/10a) (JA 平均単収比)
適期播種できた生産者	82%	214 kg/10a (123%)
播種が遅れた生産者	27%	142 kg/10a (87%)

播種日による収量の違い(10年平均)



(農林業総合試験場データ編集)

適期に播種を完了するための技術

(1) 排水対策および耕起

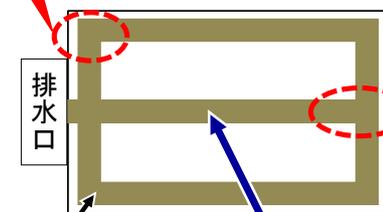
- ・ 周囲溝、弾丸暗きよは早めに施工する。(排水効果は、暗きよより周囲溝の方が高い。)
- ・ ほ場中央にも明きよを施工すると、排水はより改善される。
- ・ 周囲溝や明きよは確実に排水口に接続するよう施工する。
- ・ 耕起は播種直前に実施し、播種との組み作業を行う。

(2) 降雨後、速やかに播種できる技術

- ・ アップカッターロータリによる耕うん同時うね立て播種 (一工程)。
- ・ 部分浅耕一工程播種。(別添のマニュアル参照)

周囲溝・明きよ施工時の注意点

確実に排水口に接続する！
(接続していないと排水効果が劣る)



排水口
明きよ
(周囲溝)

ほ場中央に施工すると
排水がより改善

その他、留意すべき点

(1) 種子消毒の励行

- 栽培暦の薬剤を参考にして必ず実施する（紫斑病対策、出芽時の腐敗防止）。

(2) 播種のポイント

- うね立て播種を基本とする。
- 播種時期が遅くなるほど、株間を狭く播種量を増やし、出芽本数を確保する。

播種時期	7月1～10日	7月11～20日	7月21～31日
10a当たりの播種量 (kg)	2.9～3.4	4.3～5.7	7.9

- 土壌の水分条件や播種後の天気予報に応じて、播種の深さ、鎮圧を調整する。

基準	土壌が乾いている場合 (しばらく降雨がない天気予報)
3cm	基準よりやや深く (5～6cm) + 鎮圧 (麦用の鎮圧ローラー活用)

(3) 雑草対策の徹底

- 土壌処理除草剤は「播種後～大豆出芽前」に必ず散布する。
- 雑草の多いほ場は、播種前に非選択性の茎葉処理除草剤を散布する。
- 播種が早いほ場は、雑草の発生時期も早いいため、除草時期に注意する。

(4) 梅雨明け後の乾燥対策

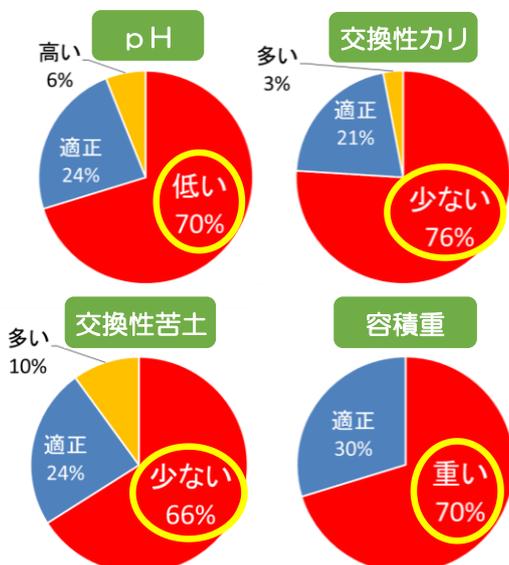
- 梅雨明け後、天気予報でしばらく降雨がない場合は、本暗きよの栓を閉めておく。

土づくりも大切です

現状

- 容積重が重い→土が固くなっている。
- pHが低く、カリ等の栄養分が少ない。

→作物が生育しにくい土になっている



平成29年調査、調査点数：麦・大豆ほ場215点

対策

- 有機物（堆肥・わら）の施用**
 - 腐植含量が増え、やわらかい土になる。
 - 土壌中にすき間ができ、排水性が向上。
 - 保水性も高まる。
 - 窒素、リン酸、カリの補給になる。
 - 土壌改良資材（炭酸苦土石灰など）の施用**
 - 石灰質資材の投入により、pHが改善される。
(基準：pH6.0～6.5)
- ※pHが改善されると根粒菌のはたらきが活発になります。

以上